



この指とまれ

ただいま都内某スタジオ。レコーディングの待ち時間の合間を盗んでこの原稿を書いている。このレコーディングのいきさつについて、僕が書いた呼びかけ文。

この指とまれ 小室等

谷川俊太郎さんが、「音楽には意味がないのがいい」と、常々言っておられる。誠にそうだと思うのに、うっかりすると不用意に意味を持たせたり、説明的になったりして、いかんいかんと思うこともしばしば。

でも、やっぱり、やってもいいない罪を着せられたまま長年拘束され、拳句の果てにいずれ死刑に処

すって、へんすぎます。

しかも、そんな目にあっている人がいるという状況を、世の中のほとんどの人が知らない。へんを知ってしまった音楽家は、音楽家のスキルを通して、へんを知らせる手伝いをしてもいいんじゃないかと思いました。

音楽が、政治的なアジテーションやプロパガンダの道具とされるの

を注意深く拒みながら。ボブ・ディランが『ハリケーン』で、へんを発信したように、金聖雄さんは映画でそれをやろうとしています。歌で、その手伝いができな

いかなかと思いいちました。谷川俊太郎さんが詩を書いてくれました。音楽、プロデュースは、谷川賢作さんです。テキストとして

の作曲は、小室が担当しました。ミュージシャンのみなさん、録音に参加してくれませんか。「この指とまれ」の呼びかけです。

金聖雄監督は冤罪をテーマにした『SAYAMA みえない手錠

をはずすまで』『袴田巖 夢の間の世の中』に続く、『獄友』を制作中。この三部作をきっかけに冤罪で苦しむ人たちを、歌を通じて応援しようとして「冤罪音楽プロジェクト イノセンス」を立ち上げた。結果今、そのレコーディング中というわけ。うじきつよし、中川五郎、中川敬、アン・サリ、李政美、趙博、白崎映美、六文銭'09ほかたくさん

のみなさんが参加。あのね、そういう歌を発表したり、文章にして『週刊金曜日』に掲載したり。それって政治的プロパガンダって言うんじゃないの？

そうか、これもプロパガンダだよ。僕の中にある「ほん」と。その「ほん」とは彷徨っている。今回、俊太郎さんが書かれた詩のタイトル《真実・事実・現実 あることないこと》、その一節。ほんとうをうそにするのはコトバ

うそをほんとうにするのもコトバコトバはヒトのつごうでかわるうそがほんとのかめんをかぶりうそのおはやみのなか

話の特集 企画・構成 矢崎泰久

伝記を熟読してわかることは、彼らは権力を使って国民を苦しめてきた。権力者は犯罪者であるという事実

に私たちは改めて気付くことになる。しかし、それは過去に埋もれており、もう取り返しはつかない。もちろん、それが引き継がれている国がある。中国の習近平、ロシアのプーチンの2人は、悪政の後継者

そのものである。彼らは自分に都合な前任者を抹殺し、あるいは取り引きして自分の権力を拡大する。まるで絵に描いたような有り様なのだ。

韓国では、政権が代わると、前任者は一族郎党が失脚する。その繰り返しなのだが、いかに権力者が腐敗

堕落しているかの証でもある。日本でも似たような事件がなかったわけではない。アメリカによって潰された権力者は何人もいる。これは日本が今も独立国家ではない証明

でもある。アメリカ支配国家だ。最たるものは田中角栄のロッキード事件だった。自衛隊の装備品購入は時の権力者の懐ろを温めていたに違いないのだが、それは今も続いているだろう。表に出ないだけで、隠された利権の数々は計り知れない。次期戦闘機とか、不良品そのもののオスプレイを17機も買うという怪しい取り引きの裏には、どれほどの利権が潜んでいるかわからない。恐らく想像を絶